

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270101280		
法人名	社会福祉法人 平元会		
事業所名	グループホーム金沢なごみ荘		
所在地 (電話番号)	〒030-0855 青森県青森市北金沢2丁目13-11 (電話) 017-775-5525		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 6月 21日	評価確定日	平成 19年 8月 6日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地に位置した民家を改造したグル - プホ - ムであり、町並みの中に自然に溶け込んでいる。採光に優れ建物内は明るく、季節感のある装飾が施され、家庭的な雰囲気には溢れている。入居者一人ひとりの生活歴や、残存機能を活かした支援が行われており、個々の生き生きとした表情からも理念の実践が読み取れる。職員間の連携やサポート体制が図られており、職員と入居者、家族の間で信頼関係が構築されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域との良好な関係を構築する為に、運営推進会議でグル - プホ - ム側の意向を積極的にアピールしている。又、町内の散歩や買い物も日常的に実施し、生活の中でさりげなく触れ合える場面を多く設定し、地域住民の理解を得るように努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 地域との関わりの中で、地域住民の理解の獲得が課題になっており、運営推進会議等で、地域高齢者の生活にグル - プホ - ムの持つ機能を還元出来ないか等アクションを起こしている。一朝には成らず、継続して取り組んで行く事としている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) グル - プホ - ムの現状や課題について報告、又、防災訓練を見学していただき、非常時の協力体制が得られるように働きかけをしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11) 家族の面会時、意見の吸い上げや状況報告に努めている。面会の困難な家族に対しては、便りや電話等で都度報告しており、不安の解消にも早期に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣地域の方々とは行き来はあるが、地域からの偏見が残っているような場面の報告がある。日頃の外出時等を活用しながら、継続的に理解の獲得に取り組み事が望まれる。

【情報提供票より】(平成 19年 5月 31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 10月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	6.5 人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	3,000 ~ 冬季6,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(5月 31日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 柏葉会 白取医院
---------	---------------

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	[家庭的な雰囲気の中で、その人らしさを大切に、安全で安心できる暖かいケアを提供します]という理念を掲げ、サービスの提供に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を確認出来るよう、日誌の裏表紙に貼付しており、会議やケ - スカンファレンスでも常に理念を機軸にした対応を取り入れ、実践に繋げている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいが出来るよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	隣近所の方とは、野菜の差し入れをし合ったり、気軽に訪問し合える関係作りが出来ている。町内会長に、グループホームの訪問を依頼し、理解を得られるように働きかけをしている。又、幼稚園に雑巾を寄贈し、お返しに園児達が和太鼓の披露に訪問したりしている。		認知症についての理解や、正しい認識を持ってもらうよう、地域に対する働きかけの継続性を望みます。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活用し、今年度は入居者の残存機能や生活歴を活かした園芸活動に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市からの指導により、開催計画の見直しを行っている。サービスの内容についての説明や意見交換・情報交換を行いケアに繋げている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外で、市町村担当者とやり取りする機会は少ない。		市町村担当者との交流を図る事により、地域のニーズの把握が出来、又、グループホームや認知症に対する考え方やサービスの実態を共有してもらい、協議を繰り返しながら課題解決に繋げる事が求められる。
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に出席したり勉強会を実践し職員の理解を深めるよう努めている。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員から報告を受け、防止に努めている。職員の意識としても虐待は無いと認識している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に十分な説明を行っており、契約書を取り交わしている。</p>		<p>民家を改造したグル - プホ - ムである事から、建物の構造上、身体機能の面で入居に制限がある旨、説明文として記載があれば理解され易いと考えられる。</p>
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に随時状況報告をしている。面会の困難な家族に対しては、毎月請求書と一緒に生活状況の記録を送付、報告している。金銭管理については、個別の小遣い帳に記入し、管理している。</p>		<p>金銭管理について、どの職員が対応したのか明確になっていない。現在までトラブル等は無く経過しているものの、内部牽制の目的もあり、対応職員の捺印等で明確にする必要性を感じる。</p>
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に口頭で意見や苦情が出されており、都度改善やケアへの導入を試みている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内での人事異動は毎年あり、欠員が出た場合は期間を設けて法人の協力を得ている。又、職員の異動先へ利用者を連れて訪問する等、交流が継続出来るよう場面設定している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々の職員のレベルに合わせ、年間を通じて最低2回は内部・外部の研修に参加する計画があり、内容については復命報告と、職員会議で口答報告し、職員間で共有出来る体制がある。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の各事業所とは、訪問時に情報交換を図り、交流がある。又、グループホーム協会主催の研修の機会も多く、得られた情報をケアに活かしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>在宅介護支援センターからの情報提供を基に、環境づくりや個々の精神面に配慮した対応に努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>園芸活動や山菜の処理方法等、過去の生活の中で身につけてきた事に関しては、職員が教えを乞う形でやっている。</p>		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの希望を取り入れ、食事や買い物等の外出を実施している。又、意欲に合わせて、園芸や縫い物の作業を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式でアセスメントし、本人や家族、必要に応じて主治医からも助言をもらい、介護計画を作成している。		介護経過記録が評価の役割を果たしている記録体制になっているが、評価は三ヶ月毎の実施が義務付けられている為、誰が見ても明確に解るように評価項目として記録されたい。
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は三ヶ月毎に見直ししているが、入居者の状態変化に応じて随時見直ししている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物等の希望に随時対応している。その他、外食会や外出等計画を立て実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望にあわせ、受診の支援をしている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期の取り決めは特にしていない。入居時にどこまで対応できるか説明し、了承を得ている。</p>		<p>民家を改造したグル - プホ - ムであることから、建物の構造上、車椅子利用の方の入居は困難であることや、身体機能の面で入居に制限がある旨、説明文として記載があれば理解され易いと考えられる。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人を尊重した対応が行われ、居室入り口の小窓を布で覆う工夫が成されている。個人情報については、ファイルを活用し管理している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人ひとりのペースにあわせ、作業している方や、居室で過ごしたい方は無理に誘導せず対応していた。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>法人の栄養士が作成した献立をベ - スに入居者の好みや、旬の食材を取り入れたメニュー - にしている。配膳や後片付けは入居者の方々と一緒に行っている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>3日に1回午後入浴している。月に1回は法人の事業所の大浴場を借りて、温泉気分を味わう事が出来る入浴の支援をしている。</p>		
3日に1回午後入浴している。又、月に1回母体施設の浴室を借りて入浴の支援している。					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事の準備、後片付け、縫い物や園芸等、生活歴や残存機能を活かした支援を行っている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物や散歩等、入居者の希望に合わせた外出支援が行われている。その他に遠足などの計画も立案し実施している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日々のミーティングや会議等において、虐待や拘束に対する意識確認をしており、身体拘束はしていない。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中施錠はしていない。夜間は戸締りをしている。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>運営推進会議の開催時に訓練を行い、災害時の実態を理解してもらえよう働きかけている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量を確認し、状態に合わせて食事形態の変更を行い栄養が確保出来るよう配慮している。水分も体調にあわせ、牛乳や野菜ジュースを提供している。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>日常では、手洗い嗽を徹底している。感染症対策として、マニュアルが作成され、活用・予防に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく季節の装飾がされている。ソファ・クッション・テーブルが設置されており、ゆったり過ごせるように工夫されている。住宅街の為、騒音も少ない。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの筆筒以外は、入居者個人の物が持ち込まれており、それぞれ好みの配置がされている。		

 は、重点項目。